

る。回を追ふに従つて、いよいよ我等が戦機は熟したり。午前十時我等は、先輩諸氏及び第二選手の涙々まじしき應援に、堅く必勝を期して乗艇しぬ。

サリュートを以て例の如く、ランチに繋がれてスタートに向ふ。敵とする二艇の中、今津中學は最初より心をゆるして、戦ふに足るも、彼の伊豫強豪、優勝候補さでうたわれたる今治中學は、仲々あなどり難き敵なりき。

さて、我等は先づ最も馴れたる調子にて、スタートに着き、他艇の準備の終るを待つ。

敵二艇は共に我がバウサイドに之を見る。此の日ヨシデシオンは、前述の如くコースの逆方向より可なりはげしき風を受く。爲に敵二艇のグイを掴むに困難する様を、悠然ながらめぐる我が漕手を我は實に心強く感じぬ。

いざ準備完了!! 嵐の前の静けさ!! 一瞬! ドン!! 俄然大蓋は切られぬ。

急調を以て得意とする今津中學は、すでにスタート五十米突を距る頃我より半艇身を先

んす。

今治は? おゝ、これも亦我がトツプを壓して、先頭にあり。然らば我艇は? 我はトツト我が漕手の平靜なる様を見し時、これある哉と心中得意にたへず、「ストローク」「ストローク」と叫ぶ。「五百米突通過!!」私の叫びし時、三百米突場迄先んじたりし今津中學は最早すでに、我が半艇身の後方にアヘギアヘギ進み来るを見る。然れ共今治は! 依然!

我が半艇身の先に聲あり。「ミドルヘビー此處二十本」我は今治に少し先んじて叫ぶ、「ヨミッ」。漕手の一勢に應ずる叫び!! 見よ! 依然我艇は急速に進み出したるを! 見る／＼今治とトツプを並べたるにあらずや!! これに驚きたるが彼は更に急調を以て我に應ず。我悠々として「尾行主義」「ストローク主義」を以て敵を苦しめしむ。

「七百米突!!」我等の策戦の中心はこゝにあり!! 此處十本! 抜いてしまへッ」「ヨシッ」

て二回戦より波浪静かなり。

我等並びに一般の豫想に洩れず、琵琶の湖上に技を練りし我と湖北の豪長濱農學及び彼の日本海に荒波を征服せし米子中學との決戦さばなれり。

我等は彦中端艇部休憩所に於て、部長先生伊吹、森等の先輩と共に深慮なる策戦をこらし、決死の覚悟を以てこれに對せん事を盟ひしなり。

自重に自重を以て充分なる準備を了へ、更に熱烈なる激勵の言葉をあびつゝ艇上の人となる。敵二艇も同じく火の如き應援を受け、之に應ふる見る。最後のサリュートも鮮かに、靜かにランチに繋かる。三艇、黙々として一語も發せず。

さて、さすがに三艇とも實にたみに、スタートのブイにつく。敵二艇をばバウサイドに見、コースは我等が最も不利なるものなりき。

いざ最後の一戦!! 今ぞ眞の頑張りを見せ

私の叫びと共に應ずる聲! 我が漕手には未だ充分の氣力あり、見よ! 見よ!! ツムツ!! ツムツ!! 我がトツプの彼を追ひ越し行く壯觀を。九百米突通過!! 此頃我は早や今治の二艇身先にあり。ラストヘビー約三十本、悠々として、ゴールに入れり。タイム五分六秒。今治に先立つ事三艇身、今津に五艇身。

第二回 戦

四日市商業 一コース 赤
大津商業 二コース 白
彦根中學 三コース 青

四日市商業にとりては、我は昨年の怨敵なりき。然れ共大津商業にせよ、四日市商業にせよ、力量の相異を充分知る我等は必勝の覺信は戰はずして有し居たり。

コンデシオンは逆風一層はげしく、やゝ波荒し。されど我は「何事やららん」と一層の元氣を以て乗艇す。部長、理事諸先生及び先輩の應援に送られて、再びサリュートを終へ、ランチに引かれてスタートへ……。

ん!! と思ふ間もあらばこそ。おさへにおさへられたる燃ゆる血潮は

突!! 轟く號砲と共に一氣にほどばしりぬ。我、スタートに於て實に滑り出し良し。と見る敵は? 壯! 絶! 急調に急調を以て三艇の等しくトツプを並べて進む狀! 百米突!

……二百米突! ……未だ優勢を見ず。「三百米突ボール通過」私の叫びと等しく「ウワーッ」呼應する漕手の聲! おゝ見よ、我がトツプは寸! 寸! 敵を抜き行くに非ずや!! 四百米「ミドル前! 半艇身抜いたぞ!!」「ウオーッ」呼應し／＼ミドルに入る。

米子、長濱は依然としてトツプをそろへて我に追ひすがらんとす。「ミドルヘビー此處二十本!!」我は敵に先んじて叫ぶ。と見る!! 敵二艇は恰も結び付けたるが如く、少しの優勢もなく而かも我を刻々壓し来る。我等は此處ぞさばかりに應戦又應戦!! 七百米「サアッもう最後の手段いで此處だ!!」聲を限りに激叫したれども、最早や我等の力に限りや有

やうやく準備を了へて合圖を待つ。

號砲一發!! 三艇は等しくトツプを並べて急進す。依然、我はストロークを以て悠々に進む。

「三百米突通過」敵二艇はいづれも急調なり。

大津商業、右に當つてやゝ後方に聲あり。我と四日市とは未だ等しく進む。「五百米ボール通過」敵二艇の疲勞狀能を窺ひ知りたる我は「ウンと力を貯へて漕げッ」と叫ぶ。「ヨーシ」一勢に漕手は之に應ず。此の如くにして悠々とミドルを過ぎ、すでに約二艇身を先んじて、後の二艇に第二着の優勢をこぜり合せながら、殆んど「ラストヘビー」の必要を認めざるばかりに悠々として、ゴールに入れり。

第二着四日市商業。

優勝 戦

一コース 米子中學
二コース 長濱農學
三コース 本 校

やうやく黄昏時とはなりぬ。逆風やゝ落ち

りけん。此より以上の艇速すに求め得られざりき、然れども唯餘す所は死を賭して戦ふあるのみ。八百米突！一歩前に登るは米子か？然るにあゝ！我は又残りの一艇長艇にもケン／＼抜かれ行く。無念！「ラストだ。後三十本ラストへビー」我は策戦の如く先んじて叫びぬ。「死ね！死んでしまへッ！」幾度かくり返し激励したるに、我等の決死の努力も、あゝ早や！ドーン！！ゴールインの號砲轟く。「後三本ッ」我等は最後まで戦ひぬ。然れども萬事並に休せり。あゝ天なる哉！命なる哉。唯校友諸賢の寛恕を乞ふのみ。

四に優勝校は米子中學、タイム五分二秒、第二着長濱農學、第三着本校
出場選手左の如し

- 舵手 尾本市平
整調 清水伍位太
五番 西田 悌
四番 森野 壽
三番 大竹 徹治

新艇進水式紀念大會之記

我が校の永年使用し來りたる艇は、既に老朽に達し、且つその型式も甚だ古く、早くより新艇建造の必要ありき。今年七月初旬より着々その計畫を立て、建造を急ぎしが、意外にその歩みはかばかしからず。やうやく十一月下旬に至りて完成せり。艇數は二艇なり。艇名は全校生徒に懸賞を以て募集し、本年の御大典に因みたる目度度き「三上」「長等」を採用せらる。作者は第四學年生徒廣瀨芳樹君なり。

偕て、此の進水式は十一月六日に舉行せられたり。當日は四十分授業三時限を以て切り上げ午前十一時、全校生徒港灣に集合、校長先生の祝辭ありたる後、直に選手獨漕を以つて開始せられたり。寒風烈しく吹きすさみ寒さ實に甚だし。然れ共、赤き血に燃ゆる全校の若人は、寒風も何かは、一人の落伍者もなく目度度く進水式記念大會の幕をまじぬ。時に午後四時。

關西漕艇俱樂部主催全國中等學校選手權大會之記

關西漕艇俱樂部の招待により、夏期休暇中なりしが、至急第一選手を叫合し、協議の結果本大會に出場する事となれり。八月廿日より約五日間、久しく握らざりしオールの小手調べをなす、然るに大會當日(八月廿六日)の前日に至りて、關西選手權は彼の大坂堂島川にての優勝校たる、滋賀師範が有する所と聞き失望落膽言ふばかりなし。故に來賓として出場する事となれり。

さて八月廿六日、原田先生に引率されて大會場たる宇治川に行く。太陽は未だ夏の威をたくましくして、暑さ言ふばかりなし。川の流れば思ひの外急なりし上に、我等は未だ川のコースに馴れざるを以て、策戦、思ふにまかせず、遂に此の日の戦は僅か二シートの差を以て、滋賀師範第二選手に勝をゆづりぬ。

野球部々報

その戦跡は荒天激浪の間に於て、大津商業四日市商業の若武者と相見え、大津商業と覇を争ひしも、遂に彼に名をなさしめた。ラストにて四日市を破り、大津の牙城まさに潰えんさせし時は、觀衆爲に總立となり、手に汗を握らしめた。初陣の功少なからず、大成を望む。

- △ △ △ △ △

部長 森脇 先生

岩崎 先生

中垣 先生

委員

宇野 一雄 西村 敏三

前田 英一 西堀、那須

植田、藤田

選手

(主)前川修 宇野 一雄

西堀 新次 那須 凌岳

植田 義之 一居 保三

宮崎 信義 吉見 東三

吉田 榮三 早崎 太一

西野健次郎 近藤尊太郎

上池覺次郎 松居

前川 覺 木野戸勝逸

布施 一雄 野村 泰三

柴田 正巳 三輪 久三

木下平三郎

マネージャー

第一 西川伊之助 外村 庸三

第二 國枝 保

我部は昨秋、先輩諸兄の部内大改革の計畫と、五年生の方々筒井、古澤、藤村、辻村の諸兄の献身的御勇退によつて断然新チームが組織されました。

そして明る年の京津大會の準備として、秋には基礎的練習をする事になりました。漸次練習は圓熟し、試合も順調に進んで行つたのですが、今年度の綠ヶ丘の敗戦は何を物語つたでせう。持前の技術も充分出し得ずして、綠ヶ丘の露さ消えたのでした。先づ稿を起す前に校友の諸兄に、御詫言せねばならないのです。

我等の夢は餘りにも、はかなき物でした。それだけ諸兄の期待を裏切つた事は事實なのです。でも我々は努めました。勵みました。バットも折れ、球も砕けよとばかりに、母校の響を双月に天を衝く意氣で練習しました。

一一五

六月九日、十日と中京遠征を行ひたり。九月、岐阜中學と同市公衆グラウンドにて戦ふ。

球 三浦氏、彦中先攻にて

中 須野川畑田居田見崎

彦 那西前西植一吉吉宮

左三投捕遊右中二一

42	9	12	0	0	1	2	4	2
37	8	5	1	1	0	0	14	8
打	安	打	打	打	打	打	振	死
得	打	打	打	打	打	打	振	球
点	得	得	得	得	得	得	振	球
3	8	5	1	1	0	0	14	8

中 立本橋川田田見坂口
足山高西安薄鷺片桐森
岐捕三中投遊左一右二

1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
0	0	0	2	0	4	0	3	0	9
0	2	0	0	0	1	2	0	3	8
本校	岐中								

翌十日、中京の雄、中京商業と尾電球場にて對戦、審判、名鐵選手

校 須野川堀田田居見崎
那 西 前 植 吉 一 吉 宮
本 左 三 投 捕 遊 中 右 二 一

1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
2	2	0	2	0	0	2	0	A	8A
本校	商								

中 戸谷大石鈴木大後渡堀場
中捕投遊左三二一右
植田の三壘打あり。

縣下リーグ戦優勝戦

六月十六日、縣下リーグ戦の湖南の勝者膳所

見に代る宇野四球を選びしが、一居の投飛に空し。

膳中、鎌田遊飛、乾捕前捕、木村遊飛失に出でしが西田右飛 (兩軍〇)

第八回 彦中、那須二捕、西野二捕失に出で西堀の中前安打に三進し、本盗を目ろみしが駄目、前川右飛、植田遊飛又好機を逸す。

膳中、米田遊飛小島三振、石川遊飛
第九回 彦中、最後の攻撃に移りしが、吉田一捕宮崎遊飛、宇野二捕に萬事休し終る。

校 須野堀川田田崎見野居
那 西 前 植 吉 宮 吉 宇 一
本 左 三 捕 遊 投 中 一 二 右

33	1	3	2	1	5	2
打	得	安	打	打	振	死
數	点	打	打	打	振	球
3	4	5	0	0	3	3

中 中田 村田田島川井
膳 田 鎌 乾 木 西 米 小 石 辻
三 中 捕 遊 投 左 二 右 一

明ければ十七日、昨日の恥辱に、血氣に、はやりたる我部員一同は、涙を吞んで第二回

中學と縣下に於ける、最後の覇を争ふ事となつた。岡本氏早川氏の審判の下で、本校々庭に於て、本校先攻

第一回 彦中、那須先づボックスに入り投直に終り、西野三直、西堀遊飛。

膳中、田中一直、鎌田四球に出で、乾の一捕に重殺を喫し、始めより白熱的なり。(兩軍零)

第二回 彦中、前川遊飛高投に生き植田中飛に重殺さる。吉田三振。

膳中、木村遊飛失にて西田の二捕に二進、米田三振の間に木村三盗し、小島四球、石川右捕を一居よく一壘に投じ、石川を殺し危機を脱す。(兩軍〇)

第三回 彦中、宮崎よく四球を選び吉見の一捕に二進し續いて三盗、一居の三捕失に生還最初の一點をあげたり。一居二進、那須左飛西野左前安打に一居本盗せんとして刺さる。

膳中、辻井左中間二壘打に出で田中の右前安打に生還、鎌田四球、乾の三捕に田中三進鎌田二進、木村右飛、西田の左中間大二壘打に

田中、鎌田生還、米田投捕に一大波瀾を生じ我軍、これに意氣喪失す。(彦一、膳三)

第四回 彦中西堀三捕、前川三捕失に出で植田の三捕にて前川二壘に封殺、吉田の三捕に空し。

膳中、小島遊飛、石川三振、辻井一飛(兩軍零)

第五回 彦中宮崎三振、吉見三振失にて一壘にアウト、一居三捕低投に出でしも、那須捕邪飛。

膳中、田中死球、鎌田三振、乾の二捕に田中二進續いて三盗、木村の左中間安打に生還、西田左飛。(彦〇、膳一)

第六回 彦中、西野三振、西堀一邪飛、前川一捕。

膳中、米田投捕、小島四球石川の右前安打を一居一壘に投じる間に、小島三進、辻井投捕田中三振。(兩軍〇)

第七回 彦中、植田二捕一失に生き、吉田の遊飛で封殺、宮崎の一捕で吉田二進三盗、吉

戦を行わん事を講堂で決議した。先輩諸氏の諫言も何かわ、唯、我々は復讐と云ふ盲目的な事項のために頭の中は満たされた。「やらうそして復讐しよう」あゝ、それは矢張り負けるための前兆だったのか?

思へど、過ぎにし過去は無言で去つて行つた。このゲームが終つた時、始めて「早まつたか?」と齒切りを飲んで泣いた。けれどそこには惨敗、惜敗の苦痛が我々の胸裡から離れる事はなかつた。

このゲームを書くに忍びない、筆もつ者の手は重くかすかにふるへてゐる。そして當時を思ひ起して感慨無量である。せめてもの後輩のための或は何かの或る物となつて思ひ出されよう。

では先づ當時を語らう。
勇氣はつゝとして挽回の意氣物凄く、膳所の地について、フリーバッティングは開始され、最後の覇を争ふ我々は、審判の命令を待った。

「ブレイホール」鮮やかに響き渡つた。彦中先攻にて

第一回(彦) 那須二三の後外角をそれるカーブをみのがして退き、西野三捕後、西堀中前安打に出で、壘手後逸に二進し續いて三盗、本盗せんとして刺され好機を逸す。

(膳) 田中、鎌田共に三振し我が投手前川の細腕物凄く。乾二捕 (兩軍零)

二回(彦) 前川遊飛、植田三捕、一居四球を利して出で吉見の三捕に空し

(膳) 木村三捕失一高投に一壘に至り、西田の投前バンドに二進、米田の投捕失に一壘三壘に至り、小島の四球に満塁となり、投手いさゝかあせり氣味で、ワイルドピッチして木村を無駄に還へし米田も一壘一生還を許さんとせしが危く止め石川三振、辻井遊飛に終り

一點を先取され緊張甚し。(彦〇、膳一)

三回(彦) 宮崎一捕吉田遊飛、那須左翼大飛球も空し。

(膳) 田中二捕鎌田四球乾遊飛に鎌田を併殺

す。(兩軍○)

四回(彦)西野三壘大トネルに一舉二壘に進み、西堀四球、前川中前安打に西野本壘を突いて無様な死をなし、西堀三進、前川二進植田の遊歩の際、球が前川の体にふれざりし前に遊歩にふれしを審判は、前川をインターフエヤーとなし西堀の生還を許さず、三壘に戻されたり。我軍は涙と共に抗議申込めども終に聞かれず、スポーツマンシップとして、深く退けどもこれよりの我軍の奮慨と共に生じし緊強味は物凄きばかり。一居三削に思ひごも思ひごも口惜しき残念さは今だに脳裡を去らず。

(勝)木村三振西田左飛米田四球小島四球石川投飛に軽くほうむる。(兩軍○)

五回(彦)吉見遊飛宮崎二削吉田三削(勝)辻井遊歩失に出で、田中四球に進壘鎌田の右飛を一居目測をあやまり、二壘打となり、走者一掃、乾三振、木村の中越二壘打に鎌田生還せんとして、我軍の吉田よく投じて

本壘に刺す。西田の四球米田の遊歩高投で木村生還し、米田は球の轉送よくて二壘に刺さる。(彦○、勝二)

六回(彦)那須三削、西野右翼に二壘打を放ち西堀の左前安打に生還し一點をあぐ。西堀二盗前川の中前安打に西堀進壘直は本壘をつかんとして刺され、残念至極、植田遊歩に好機を又もや逸す。

(勝)小島四球石川右飛辻井三振田中右飛(彦一、勝○)

七回(彦)我軍に好機は訪れたり、一居先づ左翼横に快打して、二壘打となり、宮崎に代るPH宇野の三削失に三進し吉田の右中間安打に本壘前で刺され、續く那須第一球を快打して、中右間の柵に點々させる間に、二壘打となし宇野、吉田を還し、直は三壘を取らんとして刺される。

(勝)鎌田二削乾二削木村左飛(彦二、勝○)八回(彦)西野投飛西堀遊歩前川中飛(勝)西田遊歩失、米田、小島共に左飛石川

二削(兩軍○)九回(彦)我最後の攻撃なり、今や、點は四對三を示して居る。

負け居る者の心中やどんなであつたらう。又勝ち居る者や胸中もどうであらう? さて箱は開かれた。唯一のたのみとする植田、もろくも振つて退き、一居出で左前に安打したリしが、吉見三削に一居二壘に封殺され、宇野の遊歩に今や一場の煙となつて立ち行きぬあゝ四對三、負けた。負けた。けれども真く戦つた。根の續く限り勢のある限り。球もみじんになれと頑張つた。負けの神は我々の身の上を去らなかつた。勝利には縁は遠かつた。否近くにあつても握るだけの運命が無かつた。運命だつた。然し運命と云つてしまふには、餘りにも殘酷な物だつた。けれど我々はそれを默認するより仕方なかつた。來る日の奮闘記を待つて終る。

メンバー左の如し。

校 須野堀川田居見崎野田
那西前植一吉(宮宇吉)
本 左三捕投遊右二一中

中 中田村田田島川井
田鎌乾木西米小石辻
勝 三中捕遊投左二右一

七月に入るや慶應義塾大學選手川瀬氏を招いて練習は熟して來た。

七月十五日、京津大會前哨戦として、北陸の勇者、敦賀商業と戦ふ事となつた。敦賀は以後八月の全國大會に甲子園原頭にも勇姿を表しし強者なり。同校庭に於て午後三時半開始された。幸八對一にて勝つ事を得たり。

メンバー戦績左の如し。

商 林川田田井田戸野崎
小西舟佐大栗城角洲
敏遊左中投三捕右一二

校 須崎川堀田居田見野野
那宮前西植一吉吉宇西
本 左一投捕遊二中右三

京津大會之記

第一回戦之記

目的の鐵門に面接した。過去一年間の汗と油ににじんだグラウンド生活は何のためであらう。皆この大會優勝が目標に進んで來たのだ一度彼方甲子園原頭にも駒の歩を進めたいの外何物もない。

七月二十四日、我等は京都三中と對戦せり。球審 宇摩谷、壘審 早川、松陰氏の下で。三中先攻

第一回(三中)野上四球、齋藤、投前バンドに走者二進、東遊歩失に野上三進、高木の三削に西野走者を刺さんとして本壘に投ぜしも生還を許したり。東二進三盗島田の二削に東

生還、高木三進續く佐々木右飛橋田三振に續きしが敵に四點を許したり。

(彦中)那須、宮崎共に直線的の四球を利し投手暴投で走者二三進、前川の右前安打で那須生還、宮崎三進、西堀の二削で宮崎生還、前川三進し續く捕逸で生還、植田二三の後四球一居の三削に植田進壘、吉田の二削吉見二削で終りしが點は四對三となり最初よりクロスゲームとなる。(三中四、彦中三)

二回(表)松本三振長濱四球野上の二飛で併殺し漸く前川投手球勢整ふ。

(裏)西野左翼に二壘打したりしが二壘上でアウト那須四球後盜壘、宮崎の投歩を那須三壘を取らんとして狭殺され、宮崎二進前川三削(兩軍○)

三回(表)齋藤中前安打に二盗三盜東捕前ゴロ高木の左飛失に走者生還、島田投飛佐々木三振

(裏)西堀三振の際捕手落球で生く二進し植田左前安打に西堀三進、植田二盗、一居四球

に満塁となり、吉田の三刺で西堀本壘にて封殺、吉見の三壘後テキサスと思はれしがインフィールドフライを宣告され、植田の生還を見たのみにて吉見アウト、西野三刺 (三中一、彦中一)

四回 (表) 橋田三振、松本一刺長濱三振

(裏) 那須遊劬宮崎二刺前川三刺失に出で、西堀の中右間二壘打に生還、植田の左越大三壘打に西堀生還、一居の左前安打に植田生還吉田の三刺失に一居二進、吉見に代るピンチヒッター宇野左前安打に走者満塁となりしが西野の投直に止む。 (三中〇、彦中三)

五回 (表) 野上三振、齋藤三刺失に出で東の二飛を二壘打となし走者二、三壘を占む。高木四球に満塁となりしが、島田捕邪飛佐々木三振

(裏) 那須遊劬宮崎二飛前川遊劬 (兩軍〇) 六回 (表) 小中、松本、長濱三振し投手忽ち振ふ。

(裏) 西堀四球植田三飛の間に西堀二盗、一

井の中右間二壘打で木村生還、乾の中前安打に辻井生還し乾二壘に殺さる。 (彦中〇、膳三)

二回 (表) 植田三刺失に出で一居の投前バンドに二進、宇野の左翼二壘打で生還、吉田遊劬の際、宇野三壘前で殺され、西野の二刺失に吉田二進せしも那須の三刺に止む。

(裏) 石川中前安打小島四球西田二飛米田捕邪飛鎌田二刺 (彦一、膳〇)

三回 (表) 宮崎死球を喫して出で前川の投前バンドに兩者生き、西堀の投前バンドに宮崎三進、前川二進、續く植田期待にそむかず中右間に大二壘打クリンヒットを放ち二者生還一居の左前安打に植田三進、宇野の三刺に植田生還、一居二進吉田の捕前ゴロ西野遊劬に止む。

(裏) 田中四球二盗木村の中右間二壘打に生還、辻井、乾三振、石川捕飛 (彦三、膳一) 四回 (表) 那須左翼に飛球を上げ敵に名をなさしめ、宮崎二刺後前川左前安打、西堀四球

居四球吉田の左前安打に走者二、三進満塁となる。宇野の一刺失に西堀一居還り我軍振ふ西野三振那須左飛 (三中〇 彦中二) 七回 (表) 野上三直齋藤東三振に前川投手直ふ振ふ。

(裏) 宮崎三刺失前川の投前バンドに二進、西堀右飛植田三刺 (兩軍〇)

八回 (表) 高木島田佐々木三者三振

(裏) 一居遊劬吉田投劬宇野三振 (兩軍〇) 九回 (表) 敵最後の攻撃に移りしも、小中、松本、長濱三者三振に日は没し、高らかに勝利を謳歌出来る幸ある身となつた。

この日前川投手の出来栄すこぶるよく。三振十八本と云ふ、レコード破りの記録を残すに至れり。

校 須崎川 堀田 居田 見野 野
那 宮 前 西 植 一 吉 宇 西
本 左 一 投 捕 遊 二 中 右 三

33打數 37
5得點 9
3安打 7
2二打 2
0三打 1
1犠打 1
3盗塁 3
18三振 2
3四死球 7

植田左飛に空し。

(裏) 小島四球西田セフターバンドに生き米田左前安打に満塁の時、鎌田右前安打に二者生還、米田三進、田中一刺の間に米田生還木村、辻井三振、乾の中前安打植田生還し乾を二壘に刺す。 (彦〇、膳四)

五回 (表) 一居宇野共に四球吉田の投前バンドに進塁西野中飛那須の三刺に一居生還宮崎捕前ゴロ

(裏) 石川三振小島四球西田右翼二壘打米田三振鎌田の遊劬に小島西田生還田中二飛 (彦一、膳二)

六回 (表) 前川四球、西堀の遊劬に封殺植田遊劬一居投飛宇野三振

(裏) 木村四球辻井三振、乾三刺と石川投劬に木村生く。 (彦〇、膳一)

七回 (表) 吉田投飛西野死球、那須投飛宮崎二刺を西野二壘に封殺され、前川三振

(裏) 小島三振、西田齋劬米田四球二盗に止む。 (兩軍〇)

中 上 藤 木 田 木 田 中 本 濱
野 齋 東 高 島 佐 橋 小 松 長
三 遊 二 投 左 捕 一 右 三 中
第二回戦之記

京津大會第二回戦！ 實力も充分發揮し得ず惜敗した悲しい思出です。惨又惨！！三度の敗北。ナインのコンディションは大變悪かつた。あゝ、くめども／＼あきざる緑ヶ丘の美酒に陶酔せん事に、どれだけ苦心したか？今は果敢なき一場の夢であつた。それは餘りにも、みじめな彦中軍の末路だつた。戦績をのべやう。七月二十八日一度合宿に戻りて練習した後のゲームだつた。

晴天、球審 徳川氏、壘審 瀬脇、足立両氏彦中先攻
一回 (表) 那須遊劬強襲に出でしも駄目、宮崎捕邪飛失に出でしも前川の遊劬に二壘に封殺、西堀右飛。

(裏) 米田左翼二越二壘打を放ち、鎌田一飛田中の投劬に三進、木村の遊劬失に生還、辻

八回 (表) 西堀左飛植田投劬一居四球二盗宇野中前安打に生還、吉田投飛

(裏) 鎌投劬田中、木村三振 (彦一、膳〇) 九回 (表) 西野遊劬、那須左直に惜しくも倒れ、宮崎四球に出でしも、前川一飛に萬事休す。 (零)

あゝ悲憤の涙にむせび乍ら敗戦の恥辱に泣きたかつた。然しそこには涙はしなかつた。長い間の沈黙、それは何のためであらう。涙さも汗ともつかない或る物が滴り落ちた。昨秋以来の總決算は、こんなみじめなものだつたのか？ 心淋しく合宿指して夜の道を辿り行く敗者の悲哀、勝者の歡樂、そこにどれだけのへだたりがあるのだらう。げに勝つべきは戦、負けまじきは戦。來年！ その言葉より僕等は知らなかつた。

メンバー左の如し。

校 須崎川 堀田 居野 野田 野
那 宮 前 西 植 一 宇 吉 西
本 左 一 投 捕 遊 二 右 中 三

打數	31	計
得點	11	
安打	9	
打点	4	
犠打	3	
盗塁	3	
三振	10	
死球	4	
球	6	

1 2 3 4 5 6 7 8 9 計
本校 0 1 3 0 1 0 0 1 0 6
勝中 3 0 1 4 2 1 0 0 A 11 A

八日市体育俱樂部主催 縣下中等學校大會之記

第一回戰——不戰勝者

第二回戰——對水口中學 相手棄權せり

準優勝戰之記 對長濱商業

八月八日八日市中學球場に於て、松濱、道端氏審判の下にて、彦中先攻

第一回(表) 那須悠々敵投手の虚を突いて四球を選び出で宮崎の投前横打に送られ、西堀の中前安打に三進、植田の三削失に生還し最初の一點をあぐ。西堀二盗、植田の三削失で還る。前川二直。

(裏) 西濱三削山崎投前宮村捕逸北村三振(彦二、長〇)

南濱崎村村藤林内山江

長 西山宮北伊小池若杉

中左二遊 投捕三右一

優勝戰之記

八月九日、縣下中等學校の最後の榮冠を指して、湖南の強者滋賀師範と對戦する事となつた。一時四十分から球審國司、壘審道端松澤の三氏の下で彦中先攻にて開始

第一回(表) 一死後宮崎遊越安打に出で、西堀四球の後を次いで植田左越に二壘打を放ち宮崎生還、前川の投前西堀本壘をついて捕手落球に生き、一居の死球に満塁となり西野遊撃右をぬく安打に二者生還、吉見三削に生き、再び満塁となり吉田三削に吉見二壘に封殺されたが、一居生還、那須四球後宮崎投前に止む。

(裏) 山元三振、佐村四球後矢部三遊間安打尾井の左前安打に満塁となりしも、三宅三振森田投前に危機を脱す。(彦五、師〇)

第二回(表) 西堀四球植田投前前川一二間安

第二回(表) 一居三振西野中前安打吉見投飛後捕逸で二進三進吉田四球那須三削

(裏) 三者凡退(兩軍〇)

第三回(表) 宮崎二削矢後那須代表二盗、西堀捕飛植田左前安打後逸に宮崎生還、植田二進、前川四球、一居の中前安打に植田生還

前川二進、西野の投前前川生還、吉見左飛(裏) 若山三振、杉江左飛西濱三振(彦二長〇)

第四回(表) 吉田投飛那須捕飛宮崎右前安打に出で、那須代表後二盗せしも西堀遊飛。

(裏) 三者凡退(兩軍〇)

第五回(表) 前川の左越二壘打ありしのみ(裏) 伊藤中前安打、二者三振、若山四球杉江遊前若山二壘に封殺(兩軍〇)

第六回(表) 吉見二飛吉田四球投手暴投で二進三吉田三盗せしも宮崎三振

(裏) 敵軍凡退(兩軍〇)

第七回(表) 西堀死球後二盗植田左翼二壘打で生還、前川二飛、居一の左前安打に植田三

打後一居の三壘右をつく安打に西堀生還、西野の右前安打に前川、一居生還、吉宮三翼左に二壘打を放ち西野二進、吉田の三削に西野生還、那須四球後宮崎遊飛

(裏) 中川投前馬杉一削中野、山元四球佐村三振(彦四、師〇)

第三回(表裏) 兩軍三者凡退

第四回(表) 一居三削西野の遊前惡投で二進吉見の三削惡投に西野三盗をなし吉田の三削に生還、那須の遊越テキサリガにて吉見生還、宮崎の一削に吉田三盗の際刺さる。

(裏) 三者三振(彦二、師〇)

第五回(表裏) 兩軍無爲

第六回(表) 一居三削西野の三削惡投で二進吉見の三削惡投に生き、吉田の三削に吉見二

三間に狭殺されその間に西野生還

(裏) 三者凡退(彦一、師〇)

第七回(表) 那須左直宮崎一削西堀遊前に出で、植田三削ゴロに生き、前川の四球に満塁

となる一居の三削失に西堀生還、西野の遊越

進、一居二盗西野二飛、吉見の四球に満塁となりしも吉田の三削に吉見二壘に封殺

(裏) 敵軍凡退(彦一、長〇)

第八回(表) 那須左直宮崎投飛西堀遊前失に出でしも植田左直

(裏) 杉江二飛、西濱四球、山崎の三振捕手落球に西濱二進し、宮村の三削失に續いて生還を許し一點を與ふ。北村三振(彦〇、長一)

第九回(表) 前川左前安打に出で、一居の左前安打に二進、前川三盗、西野遊飛吉見の四球の際、前川生還一居三盗、吉田の投前一居生還、那須三削

(裏) 三者三振に全く終りを告ぐ。(彦二、長〇)

校 須崎堀田川居野見田

本 那宮西植前一西吉吉
左一捕三投二遊右中

打數	38
得點	7
安打	10
二打	2
打点	0
犠打	1
三振	13
死球	2
盗塁	8

安打に植田生還、吉見四球に前川還り吉田左前安打に一居、西野生還、那須遊前内野安打に出で宮崎の中前安打に吉見、吉田生還、西堀の右前安打に那須生還、植田左飛に終りしが、この回八點入れラツキセブン物凄し。

(裏) 師範一舉頽勢を挽回すべく起ち中川四球に送られたが、馬杉、中野三振後山元四球に出たが、佐村の遊大フライに終り敵方のラツキセブンも空し。

第八回(表) 前川三削一壘低球に生き、一居四球に續く西野の一邪飛に前川三進せんとして刺され、吉見遊前一低球に一居生還、吉田三振。

(裏) 矢部投直後尾之井の二越テキサスに出で、三宅四球に送られ、森田の二削に三宅二壘に封殺さるゝ間に尾之井の生還を許し僅か一點をあたへ井上の三振に振はず。

第九回(表) 宮崎中前安打ありしのみ(裏) 最後の攻撃で、しゃにむにつつかゝりしも馬杉三振、中野四球山元佐村の三振に敵

方の影うすし。

かくて終に終る。

優勝！ 終るに共に我々の頭の中には或る物が閃いた。そうだ、その厳肅な一瞬時！そこには時間にも又空間にも超越した或る物があつた。それは輝く星の如く各ナインの各々の胸に同じ様に打つた。

何時もの通りの脱衣、夕浴、夕飯、その物にはすべて歡樂に包まれてゐた。歡樂に包まれし我々は幸福だつた。實にそうだ。

マイキラスの如き戦士は皆泣きたくなる程の心に鞭打つて、華々しく歌つた。勝利を謳歌した。

これがまあ結局は勝利の幸だつた。

メンバー

根 須崎堀田川居野見田
那宮西植前一西吉吉
彦 左一捕三投二遊右中

29打數50
3安打15
13三振4
9死球8
1得點21
0失策2
7失策1

彦 4 0 2 0 1 8 1 0 21
師 0 0 0 0 0 0 1 0 1

八日市中 堀川常野管康村藤瀬
西 西 山 藤 小 山 川 佐 高

右 左 中 三 遊 投 捕 一 二
25 4 0 2 3 2 5 2
打數 安打 振球 三振 失策 二
7 2 6 6 7 5 1
打安 打振 球三 振失 策二
23 7 2 6 6 7 5 1

得點 彦 1 0 3 2 0 3 0 9
八 1 0 0 1 0 0 0 2

彦中(先) 野崎田堀須居田藤見
西宮植西那一吉近吉
遊一三捕投二中左右

二回 戦

彦中(先攻)對滋賀師

昭和三年九月三十日午前十一時三十五分

一回 彦中 西野四球に出で宮崎四球植田中
初四球二初失策で西野生還。宮崎三進西堀二
進。那須デットボールに出で前川左飛二疊打
で宮崎、西堀、那須生還前川投手暴投で三進
一居の三初で前川生還、吉見四球吉田左初安
打失策し吉見生還、吉田三進西野左初安打に
吉田生還、西野暴投で二進宮崎三進に空し。
滋賀師 山元投初佐村三振森田四球に出で二
疊二疊尾ノ井の中飛安打に生還、尾ノ井三

元村部井宅田川上杉野
山 佐矢尾三森(中井馬中
中一遊左右捕三二投

岐 滋 大 會

彦中(先攻)對八日市中

昭和三年九月二十三日午前九時三十分

一回 彦中 西野四球に出で宮崎の犠牲打で
二進。植田三飛、西堀右越二疊打に西野生還
那須投初に止む。

八日市中 西堀投初、西川四球に出で山田常
四球西川三疊二盜壘藤野右飛小管中初安打で
西川生還、山田康右飛に空し。(彦中一、八
日市中一)

二回 兩軍無爲 (彦中〇、八日市〇)

三回 彦中 西野中初安打に出で宮崎二初失
策し西野三進、宮崎二進植田中初安打で西野
宮崎一舉生還、植田二の暴打で三進捕失策で
生還、西堀四球三疊まで盜壘、那須飛一居
四球吉田左飛、近藤三振吉見三振に退く。

八日市 無爲 (彦中三、八日市〇)

四回 彦中 西野四球先に出で宮崎四球植田
三振、西堀中初失策に二進三疊に盜壘西野生
還、宮崎暴投生還、那須ツーストライクに犠
打でアウト一居三直に止む。

八日市 藤野左飛二疊打に出で三進にアウト
小管遊初失策し山田康遊飛失策川村二疊打で
小管生還、山田康捕進で殺さる。佐藤遊初に
退く。(彦中二、八日市一)

五回 兩軍無爲

六回 彦中 西野三初宮崎中飛、植田左初安
打二疊へ盜壘投手暴投で三進、西堀二初安打
植田生還、西堀二疊へ盜壘、那須遊初失策西
堀生還、那須二疊へ盜壘、投手暴投で三進し
捕逸で生還、一居三振

八日市 無爲 (彦中三、八日市〇)

七回 兩軍凡退 (兩軍〇)

遂に九——二の七回コールドゲームに止む
時に十一時三十二分。新チームの幸先よし。

バッテリー 那須(植田、前川)——西堀

若原(徳永)——伊藤(原弟)

優勝戦 對大垣中學 六對四にて敗る。

バッテリー 那須、前川——西堀

花は散れども又咲きぬ。日は暮れど又照ら
す。獨り斷傷の思ひを以つて筆者は書き綴つ
て居る。

准優勝戦

於高商 昭和三年十月十四日午前九時半

彦中對八幡商業(先攻)

第一回 兩軍無爲

第二回 兩軍三者凡退

第三回 八商猪田左飛二疊打に出で原(兄)中
飛に死し中村中越本疊打に猪田生還、一舉に
點を得しが續く二者無爲

彦中 無爲 (八二、彦〇)

第四回 八商三者凡退

彦中 植田左中間三疊打に出で西堀の左初に
生還。那須遊初失前川四球一居の遊初失に西
堀、那須生還。吉見投初に死し吉田投初パン

ド三疊失に前川、一居生還、西野三飛宮崎右飛にツウーアウトとなり植田遊働に吉田生還西堀左側安打に植田生還、西堀捕失に二進せしも後者凡退。(八〇、彦八)

第五回 八商無爲

彦中 前川、吉田の左側安打に一點を得しのみ。(八〇、彦一)

第六回 八商無爲

彦中 植田二飛失に生き西堀の左中間三疊打に生還、那須の二側西堀生還、續く三者凡退。(八〇、彦二)

第七回 八商若原左飛安打原(弟)左側猪田四球原(兄)死球に若原生還、中村右飛安打に猪田原(兄)生還、原(弟)刺さる。徳永中飛失に伊東三側一失に中村生還、鈴木の中側に徳永伊東生還、岩瀬の二側失に鈴木生還、岩瀬二進して刺さる。若原、原(弟)四球に出で猪田の三側失に若原生還、原(兄)の二側にやむ。彦中 無爲。(八八、彦〇)

第八回 八商凡退

彦中 無爲(大、彦〇)

第九回 兩軍無爲

中 野崎田堀須川居見田
西宮植西投左一吉吉
彦 遊一三捕(左)投中右二

33打數 8 0 2 5 3 1 5 0
4安打 球 四 三 振 打 策 打 1
3死球 盜 三 三 振 打 策 打 1
1 2 0 7 4 6 1 3 得 點 6

口瀬田野田田田淵里
田建菱高岡富横山下
大垣商(先攻) 捕遊一投中左二三右

高商主催近府縣野球大會

第一回 戰

於高商 昭和三年十一月三日午前十一時

彦中(先攻)對彦商

第一回 彦中 西野左越本疊打一點を先取し吉田遊働に刺さる。植田四球に出で、西堀右越二疊打に植田三進、那須、一居四球に出で植田生還、松居三振、上池の四球に西堀生還宮崎の投手フライに止む。

彦中 那須捕飛に死し前川中越本疊打。一居吉見四球吉田左飛安打西野の右飛三疊打に三者生還、居崎の三振にやむ。(八〇、彦四)

第九回 八商無爲

中 野崎田堀須川居見田
西宮植西投左一吉吉
彦 遊一(投)捕(左)投中右二

35打數 3 6 0 8 6 10 3 9 0
3四球 死 球 盜 振 打 策 打 1
1 1 4 8 0 7 2 安打 1 本疊打 1
1 0 3 1 0 得 點 15A

八商(先攻) 村永 德永 伊東 猪田 原(兄)
中 捕 鈴 岩 若 猪 原
一(投) (左) (遊右) (捕) 二三

優勝 戰

於彦中 昭和三年十月十四日午後二時

彦中對大垣商業(先攻)

第一回 大商 田口四球に出で廣瀬投働パン下死し菱田四球高野左翼二疊打に田口、菱田生還、岡田死球富田の中側失に高野岡田生

還、捕失により富田生還、廣田淵淵併殺にやむ。

彦中 無爲。(大五、彦〇)

第二回 兩軍無爲

第三回 大商 凡退

彦中 吉見投働に死し吉田遊働に二死、西野遊働失宮崎右側失植田の右越三疊打に二者生還、西堀左側安打に出でしも那須の二飛にやむ。(大〇、彦三)

第四回 大商 無爲

彦中 前川右飛安打、一居三振、吉見遊働失吉田三側バンドに前川本疊をつきて刺さる。捕失に吉見生還、西野の中飛にやむ。(大〇彦一)

第五回 兩軍無爲

第六回 兩軍無爲

第七回 兩軍無爲

第八回 菱田中側に出で高野の中越三疊打に菱田生還、高野三疊をつきて刺さる。岡田三振富田投働バンドに二進して刺さる。

須二進せしも一居の左飛に止む。

彦商 無爲(彦中一、彦商零)

第六回 兩軍無爲

第七回 兩軍無爲

斯くして我軍十一對二の七回コールドゲームにて勝利を得、時に午後一時三十分にして交戦中時雨あり。

中 野田田堀須川居見田
西吉(遊)植西投左一松上宮
彦 捕二一遊投左三中右

24打數 3 5 1 7 1 1 0 9
1安打 三 振 球 策 打 1 1 0 9
1 9 0 9 0 0 1 0 2 得 點 11

田藤川永下木谷橋瀬
藤伊北福木鈴大大川
彦 遊一投捕中三右二左

第二回 戰

於本校 十一月三日午後三時十分

彦中對水口(先攻)

第一回 水口 中西右越二疊打、木村一疊働

に刺され岡三振川島遊仙失に中西生還、朝比奈三振に止む。

彦中 西野四球、吉田内野安打、植田の中越三壘打に二者生還。西堀死球二盗し、那須の左中越三壘打に植田、西堀生還。一居中飛失に那須生還。上池三振松居右衛門安打に出で宮崎捕飛に死し、西野遊仙に松居刺され止む。

(水一、彦五)

第二回 水口無爲

彦中 吉田中飛安打に植田の左側失に生還、西堀二側失那須二飛、投手暴投に植田生還、一居一飛に西堀と併殺さる。(水零、彦二)

第三回 兩軍無爲

第四回 水口凡退

彦中 吉田投飛、植田死球四堀中飛安打那須一飛にツーアウト一居左越二壘打に植田、西堀生還上池の三振に止む。(水零、彦二)

第五回 兩軍無爲

第六回 水口無爲

彦中 吉田中飛安打、植田遊仙に出で吉田二

進して刺さる。西堀左中三壘打に植田生還、西堀本壘を突き刺さる。那須左越三壘打に一居死球那須逸に生還。(水零、彦十一A) 斯くして十一A對一の六回コールドゲームにて勝つ。

中 野田堀須居池居崎

彦 西吉植西那一上松宮

捕二遊投一左中三右

22 打數 11A 5 2 0 1 4 3

14 得點 11 1 1 3 0 1 4 3

1 安打 1 3 3 3 1 0 0

1 三振 7 3 3 1 0 0

口 西村島奈澤山村

中 木岡川朝金増川東

水 二左捕投遊中一左三

准優勝戦

十一月四日午後三時三十分

彦中(先攻)對膳中

第一回 彦中 西野遊仙に死し吉田遊仙一壘失に一壘二壘を占む。植田遊仙に死し西堀の遊仙失に吉田生還二進を計りて刺さる。我軍一

點を先取して意氣高し。

膳中 木村四球に出で小嶋二側失に死し米田左衛門安打に木村生還、西田三振、乾遊仙に米田刺さる。(彦一、膳一)

第二回 彦中 那須イリガリーバツテドボールに死し前川三振、一居三側失に刺さる。

膳中 辻井三振、伊藤遊飛に死し奥田三振

(兩軍零)

第三回 彦中 吉見イリガリーバツテドボールに死し宮崎三側西野三振吉田遊仙にやむ。

膳中 鎌田左衛門安打木村二側失に死し小島三振

米田三側失にやむ。(兩軍零)

第四回 彦中 植田右飛に死し西堀四球に出で那須中飛二死し前川四球に出でしが一居三

振にやむ。

膳中 無爲(兩軍零)

第五回 彦中 西野の中飛安打ありしのみ。

膳中 無爲(兩軍零)

第六回 西堀投飛失に生し那須左飛に死し前川三振、西堀遊仙に死し三壘にありしが、一

居の遊仙失に生還貴重なる一點をリードす。

宇野三振

膳中 小島四球米田左飛に小島二進を企て併殺さる。西田二側に出でしが、乾の三振にやむ。(彦中一、膳中〇)

第七回 兩軍無爲

第八回 彦中 植田三側失に生ししも西堀の投仙に併殺され那須の凡飛にやむ。

膳中 無爲(兩軍零)

第九回 兩軍無爲

斯くして二對一の接戦にて日頃の好敵膳中を屠る。觀衆の熱狂言語に盡く。

メンバー(蓋し本年度ベストメンバーなり)

中 野田堀須川居見野崎

彦 西吉植西那一上松宮

捕二遊中投左右一

22 打數 11 5 2 0 1 4 3

21 得點 11 1 1 3 0 1 4 3

1 安打 1 3 3 3 1 0 0

1 三振 7 3 3 1 0 0

中 村島田田井東田田

膳 木小米西乾辻伊奥鎌

部 報

遊二左投捕一右三中

京一中 一浦中飛安打濱田三側バツテド齊藤投

失にさゝれ横地左側一死満壘となる。原田の遊仙失に一浦生還、横地中飛安打に濱田生還、鈴木投飛に死し岩崎遊仙に横地刺さる。

(彦中〇、京一中二)

第六回 彦中 無爲

京一中 田井三振、一浦投仙に死し濱田中越

三壘打をはなち後三捕逸に生還、齊藤三振

(彦中〇、京一中一)

第七回 彦中 宇野三振、宮崎二側失に生し

西野三振、吉田二側失に宮崎死す。

京一中 横地四球原田、横地の投仙バツテド内

野安打となり鈴木投仙に横地本壘を突き

刺され一壘二に原田生還、岩崎三振田井二側

にやむ。(彦中〇、京一中一)

第八回 彦中 植田三振西堀第一球中越三

壘打し那須死球に出で前川三側バツテドに西堀

生還、一居死球宇野の一飛にやむ。

京一中 一浦左側三壘打濱田の一側失に死し一

浦本壘をつきて刺さる。齊藤三振。(彦中一

京一中〇)

第九回 兩軍無爲
第十回 兩軍無爲
第十一回 彦中 前川左に死し一居左衛安打し一舉二進して刺さる。宇野三郎一壘に二進宮崎中安打に宇野本壘をつきて刺さる。

京一中 横地四球に出て原田投初失に生き横地投初バンドに刺さる。鈴木四球に出て岩崎の遊前に横地生還。(彦中〇、京一中一A)斯くして五A對四にて五時十分途に前川の健闘空しく勝運は我軍に惠まれず、夕雲包む高商大運動場に惜敗す。

因にメンバー左の如し。

中野田	堀須川	居野崎	彦	西吉	植西那	中宇宮	三二遊捕	左投	一右一	32	4	7	8	1	3	2	5	1	1
打點	36	5A	8	3	9	0	6	4	7	0	2	3	打	安	振	球	打	壘	策
得點	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
得點	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1

本年もかくして終りました。選手等はあらゆる忍苦をして、犠牲をし盡しました。本年度の惜敗を許して、来る年の麗しい日の極な校内に飾り立てらるゝ榮光の日を待つて下さい。

昭和三年度總試合

對八幡商業	十一對一〇	勝	〃京都三中	九對五	勝
〃長濱商業	三十二對六	勝	〃膳所中學	十一對六	負
〃八日市中學	十五對三	勝	〃八日市體育會	七對四	勝
〃蔡俱樂部	七對五	負	〃水口中學	九對〇	勝
〃彦根高商	三對〇	負	〃長濱商業	七對一	勝
〃八幡商業	八對三	勝	〃滋賀師範	二十一對一	勝
〃虎姫中學	十八對八	勝	〃八日市中學	九對二	勝
〃敦賀商業	三對一	負	〃滋賀師範	十一對一	勝
〃岐阜中學	九對八	勝	〃八幡商業	十五對十	勝
〃中京商業	八對一	負	〃大垣中學	六對四	負
〃膳所中學	四對一	負	〃大谷大學	六對六	引分
〃膳所中學	四對三	負	〃大阪醫大	十六對二	負
〃敦賀商業	八對一	勝	〃彦根商業	十一對二	勝
〃膳所中學	四對一	負	〃水口中學	十一對一	勝
〃膳所中學	四對三	負	〃膳所中學	二對一	勝
〃敦賀商業	八對一	勝	〃京都一中	四對三	負
			〃明倫館	九對八	負
			以上三十戰	十八勝十一負一引分	

雜 錄

本校日誌抄

- 〇一 月
- 一日 日曜 新年拜賀式舉行
 - 九日 月曜 始業式終つて新任、關先生、岩崎先生の紹介式を行ふ。
 - 十日 火曜 課外授業時間割發表、明火曜より實施の事原田武道部長より明十一日午前五時半より寒稽古實施につき訓示あり。
 - 十一日 水曜 楓先生の新任式を行ふ。
 - 十六日 月曜 内田先生新任式を行ふ。
 - 二十日 金曜 武道大會舉行。寒稽古精勤賞狀授與。
 - 二十八日 土曜 本日より臨時試験開始。
 - 三十一日 火曜 臨時試験終了。
- 〇二 月
- 七日 火曜 武道大會優勝者に賞品授與。
 - 十一日 土曜 紀元節拜賀式舉行。
 - 十八日 土曜 五年卒業試験開始。
 - 二十四日 金曜 五年卒業試験終了。
 - 二十五日 土曜 卒業生に對し校友會より送別茶話會を開く
 - 二十七日 月曜 四年學年試験開始。
 - 〇三 月
 - 二日 金曜 四年學年試験終了。
 - 七日 水曜 午前九時三〇分より第四十回卒業式舉行。
 - 十二日 月曜 國民精神作興に關する詔書奉讀式舉行。
 - 十三日 火曜 三年以下學年試験開始。
 - 十五日 木曜 久宮内親王殿下御葬儀遙拜式舉行。
 - 二十三日 金曜 同日終業式舉行。
 - 二十六日 月曜 石塚先生山口縣へ轉任せらる。
 - 二十七日 火曜 入學志願者試問考査。
 - 二十八日 水曜 入學志願者試問考査。
 - 二十八日 水曜 同上身體檢查。

三十日 金曜 午前九時入學考査成績發表。

○ 四 月

九日 月曜 午前八時三〇分より始業式舉行。

九時三〇分より入學式舉行。

級長副級長校友會各部委員選舉舉行。

十日 火曜 新舊生徒對面式舉行。

十一日 水曜 メートル法度量衡法に關する講話あり。

十四日 土曜 石坪先生新任式あり。

十六日 月曜 平井先生新任式あり。

十七日 火曜 身體檢査開始。

十八日 水曜 宇會川方面へ一日行軍。

二十六日 木曜 放課後校內庭球大會を行ふ。

二十七日 金曜 四時限目終了後招魂社參拜。

二十九日 日曜 天長節拜賀式舉行

○ 五 月

一日 火曜 午前八時三〇分より彦根港灣に於て創立記念日式舉行引續き短艇大會を行ふ。

五日 土曜 野間先生及で楓先生の告別式を舉ぐ。

七日 月曜 笠井先生新任式あり。

十四日 月曜 午後三時三十九分彦根發にて五學年修學旅行隊出發す。

十五日 火曜 午前五時三十六分彦根發にて四年修學旅行隊出發す。

十八日 金曜 午前五時三十六分彦根發にて三年修學旅行隊出發す。

十九日 土曜 一二學年生修學旅行。各旅行隊無事歸校。

二十四日 木曜 宮原先生新任式あり。

○ 六 月

四日 月曜 本日より夏服着用。

六日 水曜 全校生徒多賀方面へ行軍ならびに野外演習を行ふ。

九日 土曜 時の記念日に關し岩崎先生の講話あり。

十一日 月曜 村野先生新任式あり。

十四日 木曜 大西縣視學官來校視察せらる。

十六日 土曜 午後二時より本縣中等學校野球リーグ戰優勝試合あり。

二十五日 月曜 松田先生新任式あり。

二十九日 金曜 本學期末考査開始。

○ 七 月

九日 月曜 短縮授業開始。

十一日 水曜 一二年生水泳練習開始。

十三日 金曜 卒業生故安居恒三郎氏の遺志により校友會運動部獎勵の爲金貳百圓寄贈せらる。

五年生は敦賀兵營見學の爲午前七時九分彦根發にて出發す。

十五日 日曜 五年生歸校。

十六日 月曜 第一學年生徒父兄懇談會開催す。

十九日 木曜 五年生父兄懇談會開催す。

二十四日 火曜 終業式舉行。

二十五日 水曜 本日より夏期休業。

○ 九 月

一日 土曜 始業式舉行。

八日 土曜 薄木先生及び村山先生新任式あり。

十一日 火曜 悠紀齋田に關し笠井先生の講話あり。

十二日 水曜 悠紀齋田拜觀す。

二十二日 土曜 招魂社參拜。

二十七日 木曜 五年生上田元治君一昨夜死去の旨發表あり

廿八日 金曜 五時限目終了後佐和山神社參拜。

○ 十 月

三日 水曜 第二學期第一回考査開始。

六日 土曜 御眞影拜戴式舉行。

十一日 木曜 一年生米谷登君死去の旨發表せらる。

十三日 土曜 新造短艇命名當選者發表。

一等「三上」「長等」 四年 廣瀬芳樹君

二等「三上」「四明」 五年 吉川長造君

十七日 水曜 陸上大運動會開催す。

二十三日 火曜 四五年生午後三時出發第十六師團演習に參加。

二十四日 水曜 三年生以下午前五時より同上演習見學。

二十五日 木曜 前文部省普通學務局長關屋氏の講話あり。

○ 十一 月

三日 土曜 全校生徒の長距離競争を行ふ。

五日 月曜 御大典記念植樹をなす。

四五年生六校野外演習に參加す。

六日 火曜 四五年野外演習歸校。

七日 水曜 聖上陛下京都市行幸あらせらるるにつき奉迎

送をなす。

十日 土曜 午後三時御大典奉祝拜賀式舉行。

午後五時より銅像前集合後奉祝提灯行列を行ふ。七時解散。

十三日 火曜 行幸記念式舉行引き續き武道大會開催す。

十四日 水曜 大嘗祭御當日につき休業。

十五日 木曜 午後一時千代神社參拜。

十六日 金曜 大饗宴御當日につき休業。

二十六日 月曜 聖上陛下御還幸あらせらるるにつき奉迎送をなす。

二十八日 水曜 第二學期考查開始。

〇十二月

五日 水曜 正午より彦根港灣に於て新艇進水式引續競漕を行ふ。

八日 土曜 敦賀聯隊長青川大佐來校し全校生徒の查閱あり。

十日 月曜 後藤清太氏の特別講話あり。

十一日 火曜 一年生河村行雲君死去の旨發表あり。

十三日 木曜 午前六時三十九分彦根發にて全校生徒御大

典式場跡拜觀の爲出發す。午後七時二〇分歸校。

十八日 火曜 熊本文部省督學官來校視察せらる。

二十二日 土曜 雜誌部編輯

二十四日 月曜 終業式舉行

二十五日 火曜 本日より冬期休業

昭和三年度校友會各部役員

◇學藝部 部長 村野 外牧

理事 居井 直胤

委員(五年) 高田 外次郎 五十嵐 麗雄

(四年) 中村 誠太郎 夏川 孝太郎

(三年) 粕谷 定輝 山口 治平

◇雜誌部 部長 足立 熊雄

理事 藤下 宗誠 町田 民一

委員(五年) 河村 純一 山口 彌平

五十嵐 麗雄 種村 儀平

(四年) 夏川 孝太郎 茶木 伊三郎

理事 上木 正二 平井 清

委員(五年) 尾本市平 大竹 徹治

清水 五位太

(四年) 居山 猪一 小澤 實

中村 正作

(三年) 村岸 德雄 森野 壽

◇野球部 部長 森脇 金太郎

理事 岩崎 直砥 中垣 力

委員(五年) 西村 敏三 宇野 一雄

前田 英一

(四年) 西堀 新二 植田 義之

那須 凌岳

(三年) 西崎 勝之助 藤田 泰三

◇庭球部 部長 小松 操

理事 宮原 義則

委員(五年) 中川 豊三 西川 英吉

(四年) 木村 三雄 池田 虎雄

(三年) 早崎 太一 藤田 富男

◇競技部 部長 小野 威材

◇圖書部

部長 關 末比古

理事 及川 源次郎 佐野 忠

委員(五年) 圓城 治平 保坂 忠吉

瀧澤 秋三

(四年) 組田 重嘉 家森 武夫

山村 義信 園 凌然

(三年) 高橋 健一 西村 敏夫

林 弘英 伊藤 惠造

◇武道部

部長 笠井 久

理事 內田 義長 本田 秀治

委員(五年) 曾我 繁三 中田 實

山口 隆一 山口 彌平

(四年) 津田 元次郎 細野 善正

横田 廉一 室谷 秀治

(三年) 竹林 紀文 馬場 光一

◇端艇部

部長 原田 種臣

雜 錄

理事 居井直胤 石坪彌一
委員(五年) 南城六郎 織田誠一
小林甚藏
(四年) 上林 道 吉田 弘

飯村天佑
(三年) 大照 敏 禿林 融
◇水泳部 部長 松尾 左馬司
理事 杉原 喜美太

會計報告

昭和二年度

校友會收入決算書

科目	豫算額	決算額	差額
前年度繰越	一、六九、五三	一、六九、五三	—
職員離金	一六、〇〇〇	一五、七〇〇	三〇〇
生徒離金	四、三三、〇〇〇	四、三〇、一〇〇	二、九〇〇
新入會費	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	—
豫金利子	二六、〇〇〇	五九、九〇〇	三三、九〇〇
計	六六、〇二五	六六、八七三	八四八

昭和二年度

校友會支出決算書

科目	支出豫算	支出決算	差額
基本積立	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—
同 本年度	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—
端艇新造費	一五、五九〇	一五、五九〇	—
同 本年度	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—
學 藝 部	六、六六〇	六、六六〇	—
圖書部	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—
雜誌部	三、七五〇	三、七五〇	—
武道部	四、〇八〇	四、〇八〇	—
端艇部	七、五七〇	七、五七〇	—
野 球 部	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—
庭 球 部	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—
計	六六、八七三	六六、八七三	〇

科目	支出豫算	支出決算	差額
角力部	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—
競技部	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—
水 泳 部	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—
運動會	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—
衛生費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—
道 具 費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—
遠 足 費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—
賞 品 費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—
卒業式費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—
圖書費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—
雜誌費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—
豫備費	二、七五〇	二、七五〇	—
計	六六、八七三	六六、八七三	〇

昭和三年度

校友會收入豫算書

科目	今年度豫算	備 考
前年度繰越	二、六四五、七四七	—
職員離金	一五、七〇〇	四月實收四、七〇ナ標 準トシテ十一月分
生徒離金	四、三三〇、五〇〇	五百六十五名平均十 一ヶ月分
新入會費	二九四、〇〇〇	四月ノ實收ニヨル
豫金利子	五〇、〇〇〇	—
計	七、四五〇、九四七	—

昭和三年度

校友會支出豫算書

科目	今年度豫算
端艇新造費	一、五五、七九〇
同 本年度積立	五〇〇、〇〇〇
學 藝 部	五〇、〇〇〇
圖書部	三〇〇、〇〇〇
雜誌部	三〇〇、〇〇〇
武道部	四〇〇、〇〇〇
端艇部	八〇〇、〇〇〇
野 球 部	八〇〇、〇〇〇
庭 球 部	八〇〇、〇〇〇
計	七、四五〇、九四七



科目	今年度豫算
端艇新造費	一、五五、七九〇
同 本年度積立	五〇〇、〇〇〇
學 藝 部	五〇、〇〇〇
圖書部	三〇〇、〇〇〇
雜誌部	三〇〇、〇〇〇
武道部	四〇〇、〇〇〇
端艇部	八〇〇、〇〇〇
野 球 部	八〇〇、〇〇〇
庭 球 部	八〇〇、〇〇〇
計	七、四五〇、九四七



編輯後記

河村生

時恰も、曠古の御大禮に遭ひ奉り、仁風六合を繞りて、蒼民、鼓腹するを見、更に編輯の重任を終へて欣快の情禁する能はざるものがある。

顧みて、自分が非才を以て、中等教育を受け、力を濡らずして、業を終へんとする、素より難しとする所、今、幸ひに諸先生の御鞭撻に仍り、特に校門を去らんとするのである。多少の感慨なきを得ない。

亦、自分が雑誌部委員として、三年の間、編輯の任に當つて、何等爲す無く、任を辱しめたことの少くないことを、今更に慚ぢ且つ、謝する次第である。

是にやつと、校友會誌第三十八號を諸君の前に送ることが出来た。その出来不出来は、自分達の知る所ではない。唯自

嗟呼、校を出でて往かむとす。抑々、之を悲まん乎。

我獨り幸をとめ行かむとす。是實に樂むべき所。さもあれ筆を擱かんとして諸君の多幸を祈る。さらば！

云ひ忘れたが、各部の部報である。その少數ではあるが提出されて居ないものがある。勿論、種々の都合もあらうが、我々の迷惑することも甚しい。來年よりは期日までに正確に提出して戴きたい。

猶、五年生の諸君に一言する。此の雑誌を諸君が手にせらるる頃は、諸君が校門を去られんとする時であらう。此を去つて、各地に出で或は故郷に止まる人々でも、寸暇をぬすんで、時折の便りを寄せて呉れるならば、雑誌部の光榮之に過ぐるはない。

分達が最善と信じた所を、充分やつたつもりである。不満の所もあらうが我々の努力を買つて頂きたい。

又、投稿者としても、自身の文字の一字一字を寫したインクの迹に、満足して呉れるだらう。自分としては、其等の諸君に感謝すると同時に、その多少なりとも満足していただければ光榮である。

が、その一部の人に對して毎年同様の注意をしなければならぬのは遺憾である。即ち文字を今少し丁寧に書いて戴きたい。誤字、脱字を少くして戴きたい。材料を今少し精選して戴きたい。校正、選擇は勿論我々の任ではあるが、此等のこととは、各自、ほんの僅かの注意をすれば防がれることだ。しかも斯の如き注意は、自己の作品を眞に愛する者ならば、之をなすに吝ならざるものであらう。來年より、此の種の弊は改められんことを期待する。投稿規定は別項に在るから、宜しく参照せられたい。

心に浮び出る儘に、勝手なことを綴つて來たが、諸君の御海容を御願ひする。

時維れ極月、季晩冬に属す。陽光熾たる冷氣を和らげて窓前、處々に残雪を見る。

投稿の注意

- 投稿者は所定の原稿用紙を用ひられたい。
- 原稿には年級姓名を明記し、各種類に依り別紙に認め、雅號匿名は許さない。
- 點、丸、括弧等は一字に算入する。
- 他人の名譽を毀損し、論の政治的時事に涉るものは採用しない。
- 投稿締切期日は必ず嚴守すること。
- 原稿の採否は凡て雜誌部々長及び理事の鑑識の範圍とする。
- 原稿の返戻は一切應じない。

明治二十七年五月三十日内務省認可
昭和四年二月廿八日印刷
昭和四年三月八日發行

【非賣品】

發行所	滋賀縣立彦根中學校内	校友會
代表者	足立熊雄	
印刷者	滋賀縣彦根五番町六十二番地 村下印刷所	康
印刷所	滋賀縣彦根五番町六十二番地 村下印刷所	所

